

ART
KISS
LETTER

谷川俊太郎展

CAMK 熊本市現代美術館

会期

6.27 → 9.6

2020

(土)

(日)

開館時間：10:00～20:00(展覧会入場は19:30まで) 休館日：火曜日



COPYRIGHT ©THA LTD. ALL RIGHTS RESERVED.



私は工具類が嫌いではありません

私は背の低い禿頭の老人です

どちらかと言うと無言を好みます

それらの名称を覚えるのは苦手です

言葉とともに採まれながら暮らしてきましたから

私は過去の日付にあまり関心がなく

重なる記憶もあふれています

権威というものに反感をもっています

名詞や動

もう半世紀以上のあいだ

vol. 94
SUMMER
アートキッスレター

自己紹介

私は背の低い禿頭の老人です
もう半世紀以上のあいだ
名詞や動詞や助詞や形容詞や疑問符など
言葉どもに揉まれながら暮らしてきましたから
どちらかと言うと無言を好みます

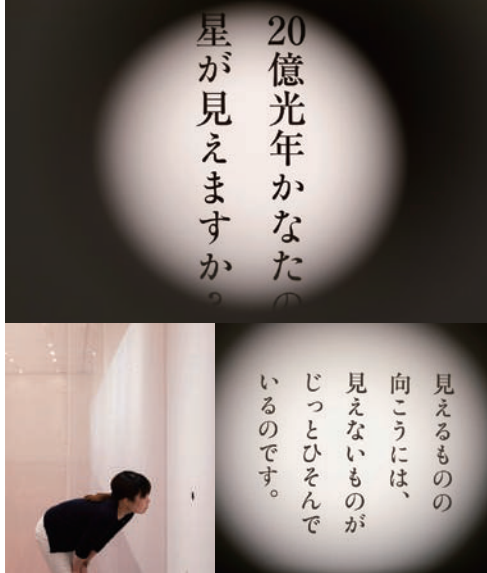
私は工具類が嫌いではありません
また樹木が灌木も含めて大好きですが
それらの名称を覚えるのは苦手です
私は過去の日付にあまり関心がなく
権威というものに反感をもっています

斜視で乱視で老眼です
家には仏壇も神棚ありませんが
室内に直結の巨大な郵便受けがあります
私にとって睡眠は快楽の一種です
夢は見ても目覚めたときには忘れていきます

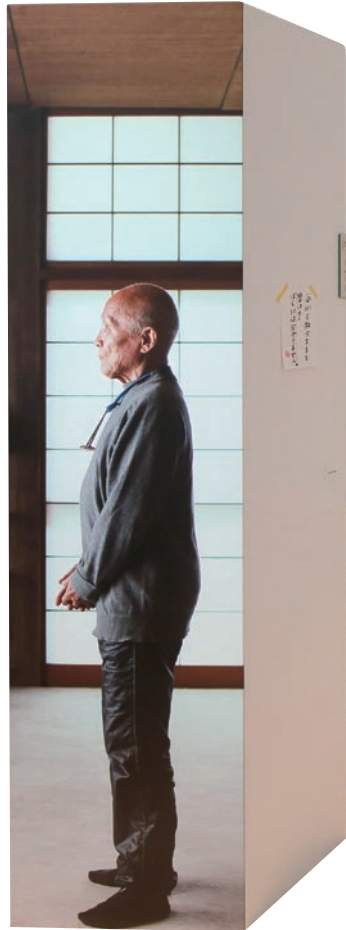
ここに述べていることはすべて事実ですが
こうして言葉にしてしまうとどこか嘘くさい
別居の子ども二人孫四人犬猫は飼っていません
夏はほとんどTシャツで過ごします
私の書く言葉には値段がつくことがあります

自己紹介+2020

懲りもせずタダの言葉を連ねて私
いつの間にか曾祖父というものに仲間入り
歩くのが覚束なくなつて外出が億劫
もっぱら自宅で自分を探検しています
どこかにまだ忘れ物があるんじゃないかと



TANIKAWA Shuntaro
Installation view at Contemporary Art Museum, Kumamoto 2020
Photo: Shintaro Yamanaka(Qsyunml)
〔ABCいずれも〕



TANIKAWA Shuntaro
Installation view at Tokyo Opera City Art Gallery 2018
Photo: KIOKU Keizo

ここ

ここに
なにをおこう
こいしをおいてもいいな
うん
こどものころみちでひろった
いつのまにかなくなった
すきだったこいし

それともえはがき
じしんでこわれたいえ
よめないじがかいてある
すてないでとつてある
このこのつくえの
みぎのひきだしにはいつていた

でもここはほんとに
ここなのだろうか
ほかのどこでもないのだろうか
しんだははは
しぬまで
ここに
すんでいた

ここになにかをおくとしたら
それはどこにもなくて
ここにしかないもの
いやここになくてもいい
うん
どこかにほんとに
あつてくれるのなら

でも

やはりここに
なにかをおきたい
ないようで
あるもの
ちゃんとあるもの
みえない
きこえない
こころのなかのことば
このことば

もじにかかなくていい
いしにきざまなくていい
すぐきえさつていいことばを
いまここに
おく

なんのために？
ためにじゃない
ただおくだけ
ここに
なにもなかった
ここに
ことばを

すると
ほら
ここが
ほんとのここに
なる



今回の「谷川俊太郎展」は2018年に東京オペラシティアートギャラリーで開催された展覧会をベースにして、熊本会場ならではのアレンジと新たな展示内容を加え再構成したものです。今号のAKLでは、本展の中でも熊本会場で発表された新作にフォーカスしてご紹介いたします。各作品についての説明・コメントは本展担当学芸員の佐々木玄太郎が執筆。

自己紹介+2020
今回の「谷川俊太郎展」では「自己紹介」という谷川さん自身の詩を軸にして、谷川俊太郎の仕事とその背景のエッセンスを紹介しています。しかしこの「自己紹介」は2007年に発表された作品で、2020年の現在はそれから13年という時間が経っています。

そこで今回の展示では「この2007年の作品に加えるような形で、現在の谷川さんの状況についての新作を書いてもらえないか？」というリクエストをさせてもらいました。すでに完成している作品に書き足す、というのはかなりイレギュラーな依頼だと思うのですが、快く引き受けていただき、書き下ろしていただいたのがこの作品です。

のぞき穴
展示室ならではの仕掛けをつくらうという企画で、空間を使った展示方法として本展企画チームが考えたのがこののぞき穴。谷川さんには「のぞき穴の先に見える言葉を書いてほしい」ということでリクエストをしました。「自己紹介+2020」もそうですが、こういったイレギュラーな条件の依頼にも面白がつて対応していくのが、常に新たな表現を生み出し続ける秘訣の一つなのかもしれません。

ここ
この「ここ」は、テーマや行数は特に指定せずに比較的自由な条件で書いていただいた新作です。非常にシンプルな形で展示していますが、展示室の中を歩きながら一つの詩を読み進んでいくというのは、普段はなかなか体験できません。

この詩を読んで感じることは人それぞれかと思いますが、自分が最初に読んだときには、美術館という場のことと連想しました。また熊本の文芸誌『アルテリ』9号*の巻頭に掲載されている「どこか」という谷川さんの詩ともつながりを感じます。

なお展示室の反対側の壁に展示している写真は、『SOLO』という1982年の写真集から抜粋したものの、いずれも谷川さんによる撮影です。

*2020年2月、アルテリ編集室発行

バナー
「通りに掲げる展覧会バナーにも谷川さんの言葉を使いたい」ということで書き下ろしていただいたのがこちら。人通りが非常に多い熊本のまちの中心に設置するということで、子どもから大人までさまざまな世代の人が目にすることを踏まえて書かれた言葉です。なおバナーの中の似顔絵は、イラストレーターの和田誠さんが描いた谷川さんの絵で、谷川さんはこれをハンコにして使っているのだとか。

バナーでも述べられているように今回は谷川さん本人の熊本入りは叶いませんでしたが、展覧会初日にはFM791のラジオ特別番組に電話で生出演していただきました。

井手宣通記念ギャラリー

4.29(水)祝 - 8.30(日)

G3-Vol.134

川野美華展 Nighthawks

大分出身の若手作家、川野美華の個展。川野の絵画の特徴は、驚異的な想像力から生み出される「異形の生きものたち」と、かれらが紡ぎだす複雑な物語にあります。残忍さとコミカルさ、凄烈と鎮静といった、相反する要素が共存する画面は、物事の二面性や世界の複雑さを示唆しているかのようです。本展では、川野が2010年から描き続けている《夜行性の庭》シリーズを中心に、その代表的作風であるピンクページを基調とした作品を展示します。

ギャラリーIII

7.11(土) - 8.30(日)

G3-Vol.135

モヒカンポシェット
世界でたったひとつをつくる

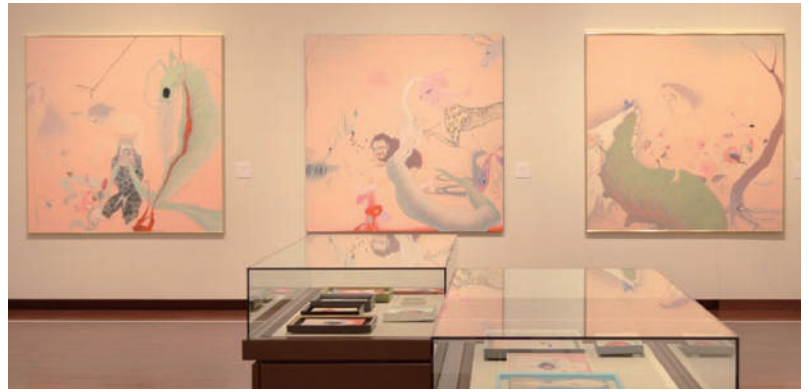
デザイナーの櫻井貴容子と櫻井栄一による服飾メゾン、モヒカンポシェットの個展。モヒカンポシェットは海外買い付けの生地をベースにしたオールハンドメイド、1点ものの女性用コスチュームの制作を続け、全国に根強いファンを生んでいます。様々なアートに刺激やインスピレーションを受け、世界各地の厳選した生地から、イメージレーション豊かに女性のための服を生み出すモヒカンポシェットの世界をお楽しみください。

9.2(土) - 10.25(日)

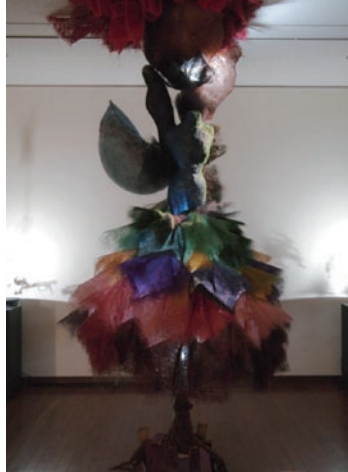
G3-Vol.136

コード・ヨーコ原画展
どうぶつえんのどうぶつたち

熊本市動植物園のどうぶつ案内看板のイラストで熊本市民にひろく知られる熊本出身・在住のイラストレーター、コード・ヨーコの個展。動植物園の復興をアートのちからで支えたコードの、愛らしく活き活きとした動物たちのイラスト約100点などを紹介します。また、市民参加型壁画プロジェクト「コード・ヨーコ 水とあそぶどうぶつたち」への『募集：どうぶつたちを描く』にご応募いただいた動物の絵も初公開します。



会場風景 / 左より《夜行性の庭Ⅵ》2012年(2013年加筆) 弥栄画廊蔵 《夜行性の庭Ⅱ》2011年 個人蔵 《夜行性の庭Ⅰ》2010年 個人蔵



第32回熊本市市民美術展

熊本アートパレード

15歳以上(中学生は除く)の熊本市在住・在学・在勤者
または出身者なら誰でも出品可能な公募展です。

本年度テーマ：「ポスト投函サイズ」であること

詳しくは当館HPまたは募集要項をご覧ください

出品受付 9.2(土) - 9.13(日)

展覧会期 9.26(土) - 11.1(日)

審査員 **明和電機**

展覧会初日に明和電機による
ミニライブを開催

開幕イベント

9.26(土) 13:30 ~ 14:00

場所：ギャラリーI(当館展示室)
定員：70名(要事前申込、先着順)
参加無料

応募方法

メールの件名を「熊本アートパ
レード開幕イベント参加希望」
とし、本文に氏名と電話番号を
明記のうえお送りください。

*応募は1名1回限りです(複数名・複
数回の申し込みはご遠慮ください。要
保護者、要介護者は同伴可)。
*新型コロナウイルス等の影響で、イベ
ントが中止となる場合もあります。ご了承
ください。

受付開始 8.22(土) 宛先 gamadas@camk.or.jp

[来館者の皆さまへのお願い] 新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、美術館を安全にご利用
いただくため、ご来館の際には手指消毒・咳エチケットの徹底をお願いいたします。また発熱・咳・
くしゃみ等の風邪の症状がある方は、ご来館をお控えください。皆さまのご協力をお願いいたします。

ART KISS LETTER アートキッスレター Vol. 94 (2020年8月) [次号は10月発行予定]

編集：佐々木玄太郎 坂本顕子 富澤治子 岩崎美千子 デザイン：石井克昌(MOTOSHIKI) 印刷：シモダ印刷
発行：熊本市現代美術館 〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500 Fax 096-359-7892

